

2023年3月29日

各 位

会 社 名 株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野 崎 秀 則
(東証スタンダード市場・コード番号2498)
問合せ先 取締役統括本部長 森 田 信 彦
TEL 03-6311-6641

株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 日本原子力学会にて同社理事の河西が表彰されました

当社グループの事業会社である株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング（本社：東京都台東区、代表取締役社長：遠藤一郎）は、2023年3月14日（火）に開催された「第55回日本原子力学会賞」贈呈式において、同社理事である河西基が共同著者となっている論文が「The Journal of Nuclear Science and Technology Most Cited Article Award 2022」を受賞しました。

「The Journal of Nuclear Science and Technology Most Cited Article Award」とは、論文発表後の一年間に数多くダウンロードされた論文に対して贈られる賞です。国内外の多くの専門家の注目を集めたという点が称えられました。

本論文は、当時同社に電力中央研究所より転籍し、東京電力株式会社のアドバイザーとして約3年間、週の半分を福島第一原子力発電所事故後の汚染水対策等の技術支援の任にあっていた河西と、同じく東京電力の相京泰仁氏、志村聡氏、電力中央研究所の土方孝敏氏、小山正史氏との共著です。「福島第一原子力発電所における汚染地下水中ストロンチウムの補修対策~アパタイトとゼオライトを用いた透過性浄化反応~」についての共同研究で、放射性物質の高い吸着性を有するゼオライト岩石の碎石にアパタイト（固着性が高く脱離しにくい）を混ぜ合わせ、放射性物質を含む汚染水が流れる場所に設置することにより、地下水が溜らないように積極的に透過させつつ、問題となっていたストロンチウムを捕集するという方法とその適用結果について論文発表したものです。

河西は、従前よりゼオライトなど自然岩石の透水性や吸着性について基礎的な試験研究を行っており、本論文での研究の基礎としつつ、土方氏（主著者）を中心にさらに技術発展させ、適用しました。この研究成果により、福島第一原子力発電所にて発生した汚染水を貯めた初期の頃のタンクの一部からのストロンチウムを含む汚染水の漏えいしたタンクエリアの下流側に配置されている地下水バイパス（ボーリング孔列）からは、現在においても有意なストロンチウムは検出されておらず、有効に透過反応壁は機能していると考えられています。

今後も同社は、環境保全や防災対策に向けた技術力を向上させ、社会の持続的な発展に寄与してまいります。

以上



授与された賞状

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
TEL:03-5246-4150
URL: <http://www.atk-eng.jp/>
経営管理本部 吉田